

## 令和7年度(2025年度)越ヶ谷地区体育祭競技規則

### 1 実施種目の概要（詳細はプログラム及び競技図を参照）

#### (1) 自治会対抗種目

##### ①大玉ころがしリレー（30歳以上の男女各4名）

2人1組で大玉をころがし、4組のリレーで競う。第1・3走者が男性、第2・4走者が女性とし、各々100mを走る。第1走者はセパレートコースとし、第2走者はバトンゾーンを超えたらオープンとする。次走者とのリレーは、人と大玉が同時にバトンゾーン内（20m）で2人にタスキの受け渡しを行う。

順位は総合タイム順に決定する。

##### ②紅白玉入れ（中学生以上8名）

4mの高さのカゴに玉を入れ、入った玉の合計を競う。スタート前に玉を持って用意し、両手を頭上に上げスターターが確認して合図のピストルを鳴らす。

1回30秒で2回行う。

##### ③綱引き（30歳代の男女各3名・40歳代の男女各7名）※他自治会と合同参加も可

30秒間のうちに、綱の中央の目印を自分の陣地に引き込んだチームの勝ちとする。予選は1回勝負とし、引き分け（審判で勝敗判断がつかない場合など）の場合は抽選によって勝敗を決定する。決勝は3回勝負の2点先取とする。2戦引き分けの場合は1点でも勝ちとする。引き分け（1勝1敗1分など）の場合は、1回だけ再戦を行う（再戦の陣地は、3戦目の陣地で行う）。それでも、決着がつかない場合は抽選とする。

※抽選方法は各チームで代表者2名を選出し、代表者が一斉に抽選棒を引き、当りを引いた代表者のチームを上位の順位とする。

##### ④地区対抗リレー（小・中・青年(高校生以上)・30歳代・40歳代・50歳以上の男女各1名）

各走者100mを走り、12人でリレー競走する。奇数走者を女性、偶数走者を男性とし、小学生、中学生、青年(高校生以上)、30歳代、40歳代、50歳以上の順に走る。第1走者のみセパレートコースとし、第2走者はバトンゾーンを超えたらオープンとする。

順位は総合タイム順に決定する。

#### (2) 子ども会対抗種目

##### ○子ども玉入れ（小学生8名）

3mの高さのカゴに玉を入れ、入った玉の合計を競う。スタート前に玉を持って用意し、両手を頭上に上げスターターが確認して合図のピストルを鳴らす。1回30秒で2回行う。合計個数が同数の場合は、同順位とする。

### (3) 自由参加種目

#### ① 50M競走 (全年齢)

50mを競走する。

#### ② お菓子すくい (小学生、中学生)

スタートから約20m地点まで走り、箱に入ったお菓子を紙コップですくい、ゴールする。お菓子からゴールは約20mとする。両手を使ってお菓子を紙コップに入れてはならない。また、ゴールまでに落としたお菓子は無効。

#### ③ ボール運び (来賓・役員・小学生以上の8名)

両手で持ったビーチボールを順に上下に手渡していく。あたまの上からもらった人は、股の間から渡す。一番後ろの人はボールを受け取ったら自分の列の左側を通って先頭まで行く。その際、スタートラインを越えてはならない。同様のリレーを繰り返す。アンカーはボールを受け取ったらコース途中でじゃんけんをする。じゃんけんは「最初はグー」をしてから行い、勝てばゴールに進むことが出来る。じゃんけんは勝つまで行うこととする。スタートからゴールまで20mとする。

#### ④ 消火訓練 (小学生2名以上を含む20名)

20人を1チームとし、1列に並んで各々がコップを持つ。端の人から、バケツの水をコップに汲み、次の人のコップに注ぐ。20人を同様にリレーし、40m先の容器に水を入れる。競技時間は2分間とし、容器に入れた水の量を競う。ただし、制限時間に満たなくても、トップチームが容器を一杯にした時点で競技を終了する。なお、20人の間隔については自由。容器を傾けて水を入れても可。

#### ⑤ ウルトラクイズ (全年齢)

問題を読み上げ、答えがわかったら○×表示の前に集まる。正解者のみが残り、20名程度を上位者とする。

## 2 競技上の注意

(1) フライングは、ピストル2発又は3発で指示する。

(2) フライングを2回したらスタートを1メートルさげて、なおかつフライングしたら失格とする。

(3) バトンタッチする際、次走者がバトンゾーンを越えた場合 (ラインを踏んだら) は失格。

(4) バトンを受け渡す際にバトンまたはタスキを落とした場合は、前走者が拾い次走者へ手渡す。

### 3 その他の注意

(1)学校敷地内は、禁煙です。

(2)参加者は、当日、午前8時までに会場に集合すること。

(3)服装は運動しやすいもので、はきものは運動靴とし、スパイク、ゴムスパイクは禁止とする。

(4)審判については、すべて審判員に任せること。

(5)ゴールテープは必ず胸で切ること。

(6)ごみは散らかさない。各チームでまとめて持ち帰ること。

(7)ケガ人が出た場合、その競技の審判は、競技を中止させる権限を有する。

ただし、あくまでもケガをした本人の競技参加継続への意志を確認し、決定を下す。

(8)ケガ人が出た場合、速やかに大会本部へ連絡すること。